

## 平成30・31年度会長選挙候補者

会長候補者選定委員会



東北大学材料科学高等研究所教授  
阿尻雅文

平成30・31年度会長候補者は1名でした。  
選挙は信任投票で行います。  
(会長候補者選定投票規程第6条2項：  
学側会長候補者が1名の場合は信任投票とする。)

### ☆☆ 投票開始 ☆☆

Web投票：平成29年9月27日(水)10時～10月16日(月)16時  
(化学工学会のHP(<http://www.scej.org/>)より投票できます。投票方法はHP内に記載してあります。)  
郵便投票：平成29年9月27日(水)～10月16日(月)の消印有効

### ☆ 投票資格者

平成29年6月31日現在の正会員在籍者

### ☆ 郵送による投票用紙の請求期間

平成29年8月1日(火)～9月7日(木)

<請求先> 〒112-0006 文京区小日向4-6-19 共立会館5階

公益社団法人 化学工学会内 会長候補者選定委員会

\*\*会員番号、会員名、Web投票ができない理由を明記してご請求下さい。

投票用紙は確認後、会員登録住所に送付致します。

### ☆ 選挙活動期間

平成29年8月1日(火)10時～9月26日(火)17時

この期間に候補者への質問をE-mailにて受け付けます。質問及び質問への回答はHP上にて公開致します。

質問先：[election2017@scej.org](mailto:election2017@scej.org)

上記メールアドレス宛に「会長候補者宛質問事項」という題名で、会員名と会員番号を明記した上でご連絡ください。

### ☆ 結果

化学工学会誌及びWebに掲載

## 平成30, 31年度会長候補者推薦書

### 1. 推薦者氏名及び会員番号

推薦者は公表されません。

### 2. 公選制候補者氏名及び会員番号

氏名：阿尻雅文 会員番号：7902855

### 3. 公選制候補者略歴

#### ・学歴・職歴

1981年 東京大学工学部化学工学科卒業  
1986年 東京大学大学院工学系研究科化学エネルギー工学専門課程博士課程修了(工学博士)  
1987年 東京大学工学部化学工学科 助手  
1989年 東北大学工学部生物化学工学科 助手  
1991年 同大学 助教授  
2002年 同大学 多元物質科学研究所 教授(兼務)  
2007年 同大学 WPI原子分子材料科学高等研究機構(2017年 材料科学高等研究所に改組) 教授  
現在に至る。

その間、2015年より、日本学術会議23, 24期会員

#### ・本学会の主な活動歴

VISION2011委員会ワーキンググループ, 理事・地域CT担当(2003～2005), 理事・戦略企画担当(2010～2012), 超臨界流体部会・部会長(2013～2015), 副会長(2015～2017, 2017～), 研究賞(平成18年度), 学会賞(平成24年度) 他, 文部科学大臣表彰(平成22年度), 文部科学大臣賞2回, 全国発明表彰等, 受賞多数。

### 4. 化学工学会を運営する方針・施策

VISION2023を達成すべく、前元会長、菅原前会長、藤原新会長は、学会改革を強力に進めてこられ、また現在も推進しておられます。私も副会長として微力ながらそれを支援して参りましたが、その流れを引き継ぎ、さらに推進して参れればと思っております。

会員の皆様とともに目指す目標・方針として、「産業・社会が求め、高く評価され、また夢を抱ける化学工学」を掲げたいと思います。化学工学の活躍・貢献の場、そして産業・社会からの要請は、広くまた多様化しています。それらを新化学工学体系としてまとめることで、新たな技術基盤・教育基盤をつくります。化学工学便覧も含め、その形は、情報化社会に即したものとしていく必要もあると思います。また、社会実装学創生研究会の活動をより充実させ、そこから将来の化学工学の核テーマを炙り出しつつ、VISION2036の基本的な方向性を議論する場を作りたいと思います。さらに、外部(海外、日本学術会議、日化協、JACI、マスコミ等)との連携を通して、より大きな活動展開と、発信力の強化を図っていきます。これらを推進する上で、ダイバーシティ(女性・産・若手の参画、外からの視点)と国際化は欠かせないと思っています。

### 5. 抱負

上記施策を会員の皆様と一緒に進め、社会・産業が求める新化学工学基盤ができ、また社会への発信力も向上すれば、今まで以上に社会・産業に貢献し、また高く評価される化学工学を築き上げられると思います。それは、若い研究者、技術者、学生が夢を描きつつ、ぜひ自ら関与したいと思え、またそれを実現できる場となると思います。

大切な点は、そのような学会を作って行く主役が、会員の皆様だということです。何よりも、美しいハーモニーを奏でつつ、総力を挙げて取り組んでいただける環境を整えることが大切だと思っています。そのために、今まで以上に、部会、産学連携の縦糸と支部連携の横糸と本部との間の情報共有を密にし、個々の声、課題を拾い上げ、共にその解決にむけて、フレキシブルに対応していける体制を作っていければと思います。

ぜひ、ご一緒に、夢を抱ける新たな化学工学を作ってまいりましょう。